

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4590100170		
法人名	有限会社 与苑		
事業所名	グループホーム与苑		
所在地	宮崎市広原312-1 (電話) 0985-39-5333		
評価機関名	宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年5月16日	評価確定日	平成20年6月30日

【情報提供票より】 (20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年4月11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤16人, 非常勤0人, 常勤換算14人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (5月1日現在)

利用者人数	18	男性 4名	女性 14名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	7	要介護4	4
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 82.8歳	最低 59歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ユニット1が平成17年4月、ユニット2が19年7月に開設された比較的新しいグループホームである。郊外の田園の中に位置し、木造平屋造りの内部はゆったりした設計で、トイレなどの配置も考慮されている。隣接して農園があり、職員と利用者が一緒に作業して季節の野菜を育てている。管理者をはじめ職員の交代が多いが、現在のスタッフは看護師、介護職としての経験が豊富であり、利用者を最優先に、地域密着型サービスとしての質の向上に熱心に努めている。地域との交流は計画の段階であり、これから具体的に取組もうとしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、職員の交代が多いため検討が不十分である。課題については、職員による定期的ミーティングを行い、評価の資料に基づいてお互いに意見を出し合いながら、これから具体的な改善に向けて努力していくという状況である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回は、管理者及び各ユニットの主任が主に取組み、他の職員は自己評価の意義と活用についてきちんと理解していない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、今までに2回(昨年1回、今年1回)開催されている。2か月に1回の開催予定にしているが、出席者の調整がつかないために開催していないということである。従って、運営推進会議で検討し、それを活かした取組みまでには至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見等については、話し合いの場を設けてサービスへ反映し、実施している。利用者の健康管理に関する家族の不安への対応として、医師による訪問診療を週に1回実施することになり、利用者、家族、職員の安心感に役立っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や老人会等は未加入である。防災訓練に関しても地域の住民の参加を呼びかけていない状況である。管理者は、地域との連携について理解しており、これから地域との交流に力を入れて取組もうとしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程に「地域に開かれたものにする」とともに、利用者が地域社会の一員として生活することを支える」とあり、地域密着型サービスとしての理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員1人ひとりには理念の実践に向けて取り組んでいるが、職員全体で話し合いをし、理念を共有する取り組みは不十分である。	○	職員全体で話し合いをする機会をできるだけ設けて、理念の実践に向けてそれぞれが意見を十分に出し合い、全職員が理念を共有する取り組みをお願いしたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設して日が浅いということもあり、地域との交流は計画の段階である。自治会、老人会等も未加入であり、地域の行事への参加もこれからである。職員は、地域との交流の重要性は理解しており、意欲もある。	○	地域との交流は、考えているだけでなく、実践できることから始めていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や主任が中心になって取り組み、職員全体には評価の意義や目的について伝わっていない。事業所における職員の交代が多いため、前回の評価の結果が十分に理解されておらず、質の向上への具体策がない。	○	評価の意義を理解し、事業所全体でサービスの質の向上に取り組むために、自己評価を全職員で行い、外部評価の結果について全職員で検討することをお願いしたい。

宮崎県宮崎市 グループホーム与苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の計画はあるが、開催されたのは2回のみである。管理者は運営推進会議の意義や活用については理解している。	○	全員出席のための調整よりも、まず運営推進会議を開催することから始めていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関すること等を相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の暮らしぶり等を報告している。家族への連絡帳を作成して報告する取り組みはあるが、内容は十分に機能していない。職員の異動に関する報告はしていない。	○	家族への連絡帳を活用して、定期的に報告するための取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の意見を聴くことに努めている。運営推進会議の開催回数が少なく、家族会も設けられていないため、家族等の意見を反映させる機会が少ない。	○	運営推進会議や家族会の開催について積極的な取り組みをお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者及び職員の交代が多く、家族等への説明、紹介がきちんとされていない。	○	管理者及び職員の交代を最小限に抑える努力をお願いしたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は研修を受ける機会が与えられており、受講した内容は復命書により全職員に回覧している。職員は研修を受講することに積極的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のブロック会等に参加しており、他の事業所との情報交換を通じて質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐにサービスを開始するのではなく、体験入居をしてもらったり、家族及び居宅の担当ケアマネジャーと相談しながら対応している。ユニット1とユニット2を行き来して、他の利用者と交わりながら馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の「やさしい心」に接して感動することもあり、お互いに感謝の気持ちを共有している。隣接した畑では利用者から農作業を教えてもらったり、日常生活の中で支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の話をゆっくりした態度で聞くように努めている。利用者を最優先に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成においては、課題分析をしっかりと行い、本人、家族の希望を尊重している。入居時に担当職員を決め、利用者の状況把握に努め、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、見直しを行っている。また、介護計画の評価を行い、利用者の状態に合わせて見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所としては受診の同行、見学に来られたことのある高齢者の台風時の安否確認などの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には「かかりつけ医」を尊重しており、家族の付き添いができないときには、職員が同行して受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の意向を確認し、重度化が予想される利用者に対しては、受け入れ先の病院との連携を図っている。また、家族には十分に説明をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を守ることの重要性を理解しており、利用者と職員との会話は丁寧である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にはそれぞれ担当職員がおり、利用者を最優先にとの姿勢で、状況に合わせて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は併設施設で一括して行われおり、各ユニットでは利用者と職員と一緒に盛り付けをしている。利用者と職員が同じテーブルを囲んでいるが、職員は持参した弁当を食べている。検食は交代でしている。	○	利用者と職員が同じテーブルを囲みながら、同じものを食べることを検討していただきたい。また、各ユニットごとに調理をする意向があるとのことで、実現を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者の希望を聞いて午前と午後に分けており、ゆったりした浴室で1人ひとりが楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴等を把握して、1人ひとりの力を生かした支援をしている。隣接した農園では農業経験者に野菜の植え方を教えてもらい、収穫した野菜は地元の調理方法を利用者から聞いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、利用者の1人ひとりの希望に添って、散歩や買い物を一緒に楽しみながら支援している。軽自動車を利用して、職員と利用者の2人でドライブをすることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでおり、利用者が外出しようとした時は、職員が察知してさりげなく声をかけており、見守りの体制や連携がよくできている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム与苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所内での避難訓練は実施しているが、消防署や地域住民との協力は得られていない。	○	避難訓練は、消防署の協力を得て、地域の住民にも参加をお願いして、定期的を実施することをお願いしたい。また、非常用の食料や備品についても準備をしていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表では栄養バランスが考慮されており、午前と午後のおやつの中には水分摂取を重視している。1人ひとりの摂取状態を把握し、記録している。	○	専門家（市保健所の栄養士等）に、専門的な観点から助言・指導を受けて、利用者の栄養管理をお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、浴室、トイレは余裕のある設計で、配置もよく考慮されている。自然光が入り、BGM（季節に合った優しい曲）の音量も心地よく設定されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、仏壇やタンスを持ち込んでいる利用者と、シンプルな空間を好む利用者があるということで、それぞれ利用者や家族と相談しながら居心地よく過ごせるように1人ひとりを尊重し、配慮している。		

※  は、重点項目。